

三河地震の概要



深溝松井にあった三河地震の避難小屋

幸田町教育委員会

三河地震の概要

1. はじめに

昭和20年1月13日3時38分頃に、震度7（マグニチュード6.8）の大地震が三河地方に発生し大被害を与えた。この地震は昭和19年12月7日13時36分頃に発生した東南海地震と同様に戦時中の大地震であり、当時の社会情勢からその詳しい震災資料の発表があまりされなかった。発表されたものでも極秘の印が押されており、公表されないまま終戦とともに失われたものが多く、被害の詳細はよく知られていない。しかしながら、近年資料の掘り起こしが進み、より多くの事実が明らかとなってきている。

この概要は、それらの調査結果を紹介するものである。

2. 三河地震の前震・本震及び余震

(1) 前震

昭和20年1月11日頃から形原町、西浦町を中心に多数の地震が発生した。当時の中央気象台の地震観測によって観測された地震は

- ・ 1月11日 有感地震6回 無感地震6回
- ・ 1月12日 有感地震なし 無感地震2回

の合計14回である。1月11日10時43分頃に発生した地震規模はM5.2であり、同日14時57分、15時16分、23時55分頃の三つの地震はそれぞれM5以下の小区域地震であった。海沿いの形原町、塩津町、西浦町（蒲郡市）西幡豆町（西尾市）などでは音や光を伴った地震が多数あったが戦時中であり、大砲の音だと思われていたようである。

(2) 本震

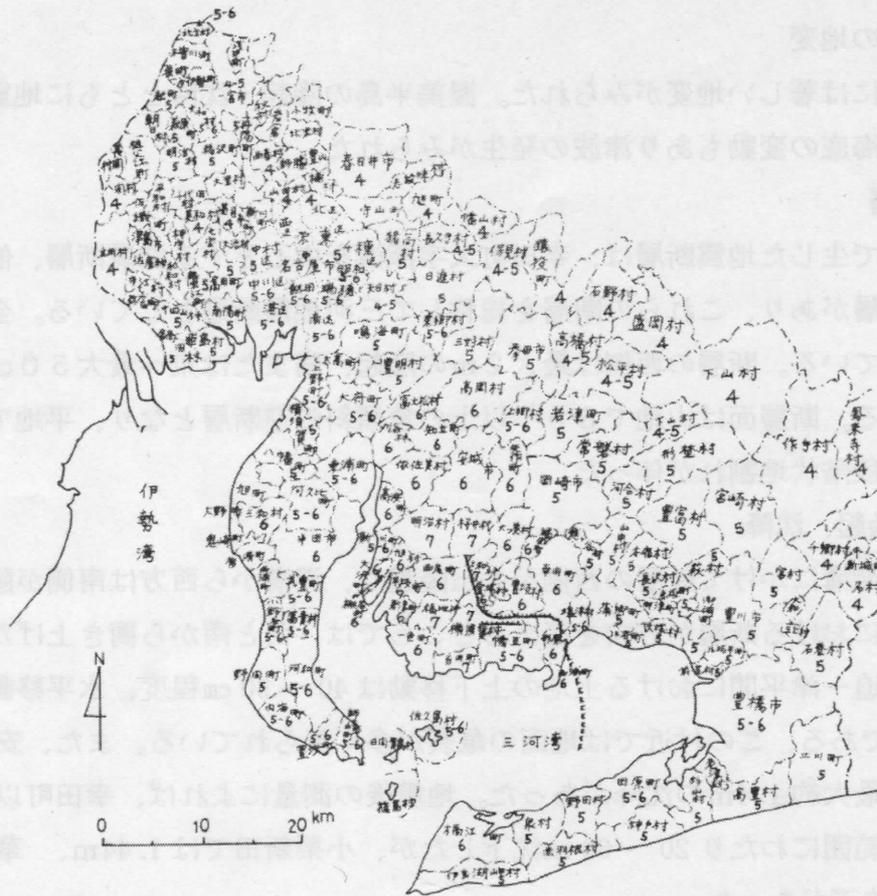
本震の三河地震は1月13日3時38分頃に発生、震央は渥美湾内、北緯34.7°、東経137.2°の地点で震源の深さは10km以下の浅所となっている。

地震の規模はM6.8、有感半径は690kmにも達している。この地震は直下型の地震であり最大震度5といわれていた地震であるが、実際には西三河地域では震度6の所が多く、震度7に達した所もかなりあった。

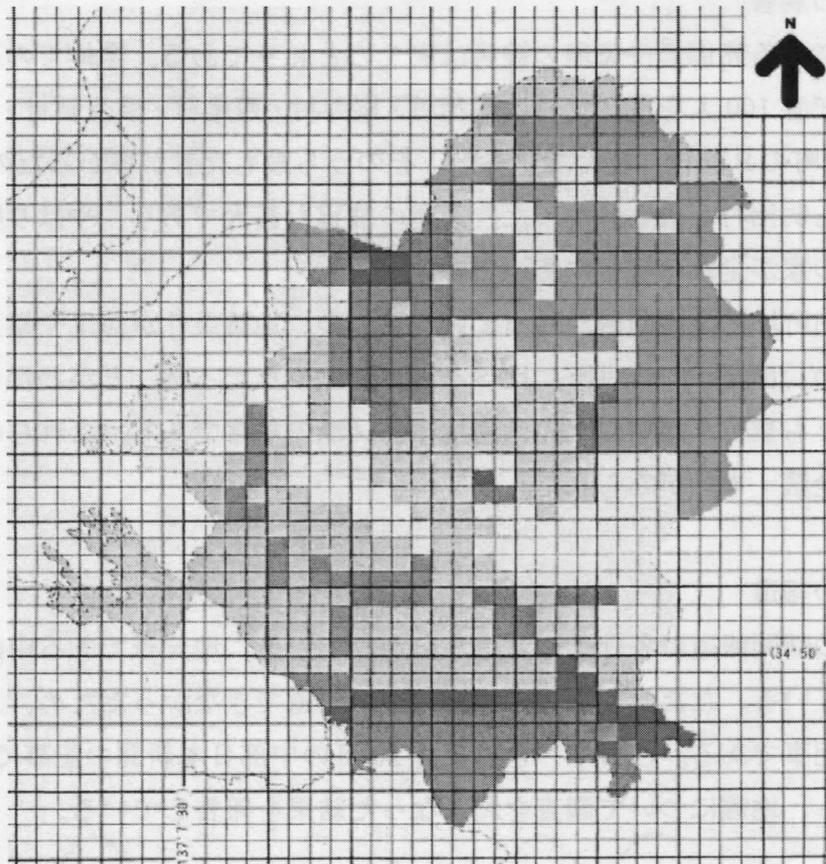
最大の震度7に達した地域は碧海郡明治村・桜井村、幡豆郡三和村・横須賀村・福地村・吉田村であり、これは現在の安城市・西尾市の一部である。なお幸田町域は震度6であった。

(3) 余震

三河地震には多くの余震が伴った。1月中には800回以上を数えている。



市町村単位における震度分布 (飯田 1985 より転載)



幸田町域の震度分布度 (幸田地震レポートより)

3 三河地震の地変

この地震には著しい地変がみられた。渥美半島の隆起・沈降とともに地震断層が出現した。また海底の変動もあり津波の発生がみられた。

(1) 地震断層

この地震で生じた地震断層は、幸田町大字深溝を中心とする深溝断層、他に形原断層と横須賀断層があり、これらの断層を総称して三河地震断層としている。全延長は約28kmとなっている。断層の西側は最大2mの隆起、南または東へ最大50cmの水平移動を伴っている。断層面は山地で50°以上の急傾斜の逆断層となり、平地では20°内外の傾斜で段階状地割れが伴った。

(2) 土地の隆起、沈降

形原から深溝にかけて断層の西側が2m隆起し、深溝から西方は南側が隆起した。深溝及び前野における断層が方向を変えるところでは、西と南から衝き上げたようになっている。宮迫一津平間における土地の上下移動は40～50cm程度、水平移動は南側が東40～60cmである。この付近では地面の亀裂が多く見られている。また、安藤川、広田川流域では最大約1.4mの沈降があった。地震後の測量によれば、幸田町以西の旧幡豆郡下では広範囲にわたり20～60cm沈下したが、小栗新田では1.44m、華蔵寺付近では1.4mの沈下があった。

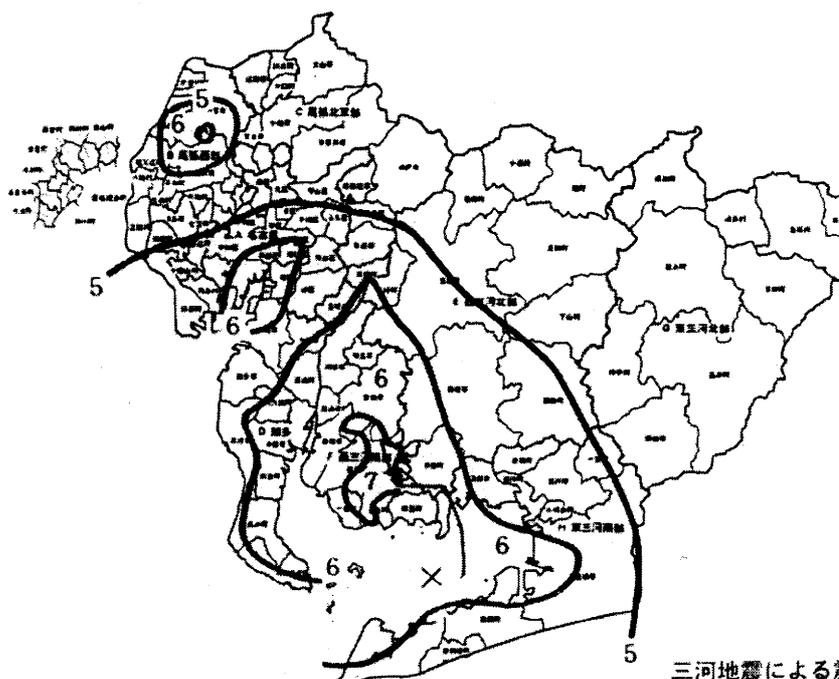
4. 三河地震の震害

この地震による死傷者や家屋の被害は表1のとおりである。全体での死者は2306名を数える。死者100人を越えた村は明治村・桜井村・西尾村・横須賀村・三和村・福地村・形原村・安城町の8町村に及んでいるが、そのうち最も死者が多かったのは明治村であった。負傷者も明治村が最も多かった。家屋の被害も甚大であり、やはり明治村では1000戸以上の家が全壊の被害にあっている。

当時の幸田町域は深溝断層が通っているものの、地盤条件が西尾や幡豆地域より恵まれていたため、西尾市や吉良町に比べると被害は少なかったことがわかる。現在の幸田町域でもっとも被害が集中したのは逆川や一ノ瀬の集落である。これらの集落では死傷者や住宅の全壊・半壊がみられた。

5. 三河地震の報道

地震翌日の新聞報道は各社その対応が分かれている。地元紙である中部日本新聞では大きく扱っている。ただし、被害の詳細について報道できなかったため、人心の安定に焦点を置いた記事である。注目すべきは1月20日の中部日本新聞の記事である。独自で調査団を派遣し、地震について調査をおこなった結果を報告している。



三河地震による震度分布 (飯田 1978をもとに作成)

三河地震による被害の総括

表1【愛知県下の被害状況】

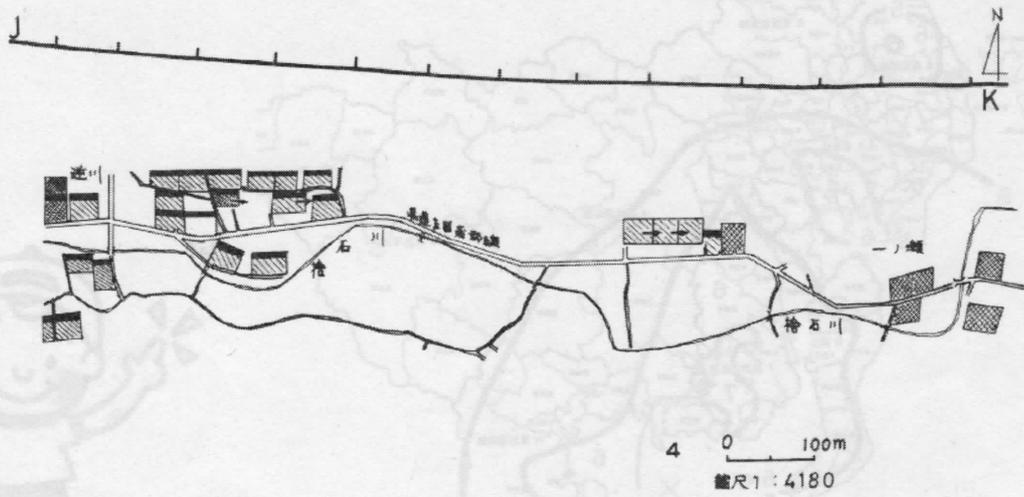
市町村	死者	負傷者	住家		非住家		住家		
			全壊	半壊	全壊	半壊	全壊率%	半壊率%	被害率%
名古屋市	8	26	72	460	141	562	0.1	0.5	0.4
豊橋市	1	4		39	5	3	—	0.1	0.1
半田市	12	5	124	333	31	79	1.2	3.2	2.8
知多郡	0	2	33	388	109	193	0.2	1.6	1.0
碧海郡	851	1,134	2,829	6,950	4,812	7,485	7.9	19.3	17.5
幡豆郡	1,170	2,520	3,693	6,388	3,468	5,751	21.2	36.7	39.6
額田郡	26	18	41	81	16	6	1.6	3.2	3.3
宝飯郡	231	151	333	1,443	515	770	10.4	45.1	32.9
渥美郡	1	6	92	459	83	261	1.8	9.1	6.4
愛知郡	0	0	2	9			0.0	0.0	0.0
中島郡	0	0	2	2	5	11	0.0	0.0	0.0
葉栗郡	0	0		3	2	3	—	0.0	0.0
合計	2,306	3,866	7,221	16,555	9,187	15,124			

【幸田町の被害状況】

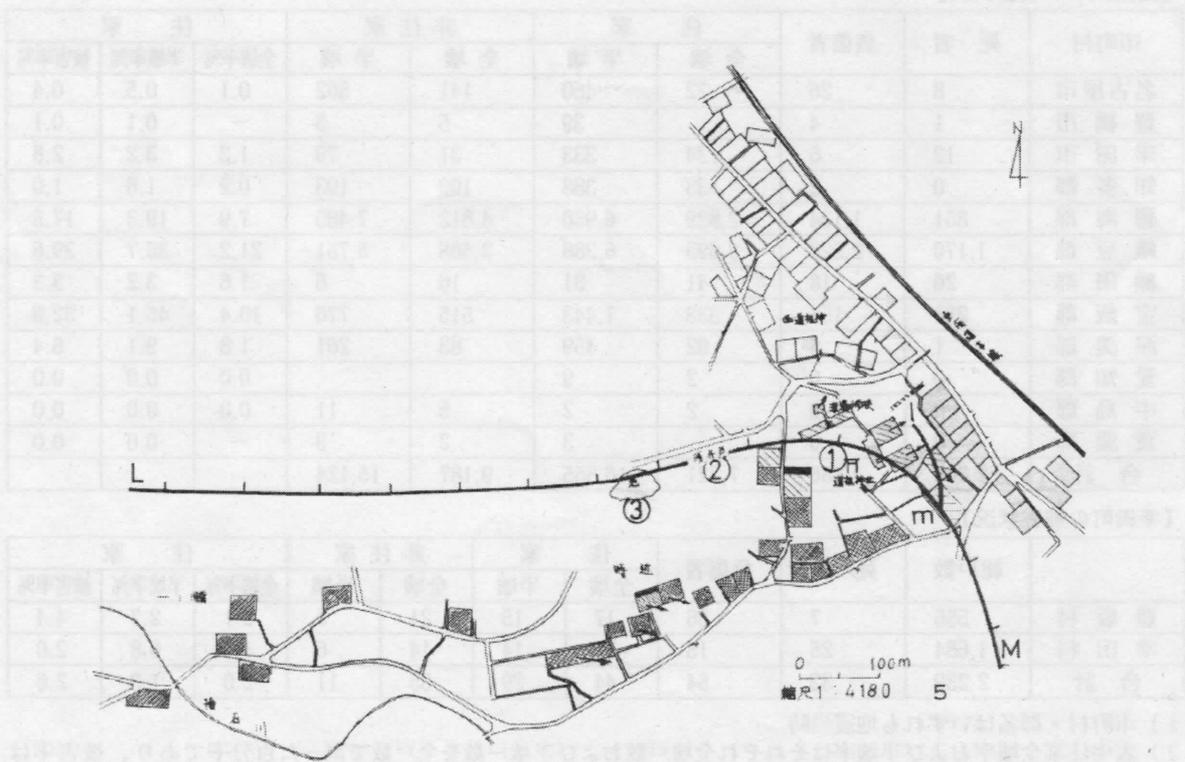
	総戸数	死者	負傷者	住家		非住家		住家		
				全壊	半壊	全壊	半壊	全壊率%	半壊率%	被害率%
豊坂村	555	7	36	17	15	21	5	3.1	2.7	4.4
幸田村	1,684	25	18	27	14	14	6	1.6	0.8	2.0
合計	2,239	32	54	44	29	35	11	2.0	1.3	2.6

- 1) 市町村・郡名はいずれも地震当時
- 2) 表中住家全壊率および半壊率はそれぞれ全壊戸数および半壊戸数を全戸数で割った百分率であり、被害率は全壊戸数に半壊戸数の半分を加え、総戸数で割った百分率を示している。
- 3) 幸田町は当時、幡豆郡豊坂村と額田郡幸田村に二分されていました。

三河地震の被害状況 (幸田地震レポートより)



深溝一ノ瀬付近における倒壊家屋の分布



深溝時近付近における倒壊家屋の分布

飯田 1985 より転載



深溝断層の位置

本社が震害地學術調査團を派遣

震害七日後、本月十三日



野田 廣吉 · 矢橋德太郎 · 宮部 直己

美濃を震源地とする地

地方を中心に若干の罹災者を出

し目下該地のなかへら雄々しい

復舊作業が進められてゐるが、

さらに十六日美濃付近を震源

地とする余震および人体に感ず

る程度の微震が連日発生してゐ

るのに鑑み本社ではこれら震源

と現象を探究、調査して人心安

定に資與すべく

名古屋地方気象台技手

野田 廣吉

理學博士 宮部 直己

矢橋德太郎

名古屋地方気象台技手

野田 廣吉

の三氏に依頼して「震害地學術

調査團」を組織、十九日から四

日間に見つて美濃地区の震害

地付近をつぶさに調査、學理と

実相の両面から厚利な科學のメ

スを擧ふこととなつた

宮部 直己 昭和二年東大理

學部物理學科卒、東大助教

を経て同十六年名大理學部教
授、その間十五ヶ年に直つて
地質研究所員として活躍、同
研究で昭和十一年學位を授與
された地震學界の權威

矢橋德太郎 昭和十四年東大

理學部地質學科卒後同大臨時

技手を経て昨春三月より岐阜

專修師となり物理、數學を擔

當する氣象の研究である

野田 廣吉 中央氣象台技手

官養成所付隨速成科を卒へて

昭和二年以來名古屋地方氣象

台勤務、永く氣象と地質との

關係について觀測研究してゐ

る實際的慮慮者である

學理、實相から研究

人心の安定に寄與

1月20日、中部日本新聞

6. 現在にのこる三河地震の爪痕

幸田町内

- ・深溝断層
- ・本光寺の東御廟所の土堀
- ・拾石川の段差

蒲郡市

- ・宗徳寺の三河地震による地割れ

西尾市

- ・龍宮神社の段差（非公開）

7. 三河地震を勉強するための主な参考資料

飯田汲事 1985『飯田汲事教授論文選集 東海地方地震・津波災害史』

幸田町 1996『幸田地震レポート』

幸田町 1997『幸田町まちづくりシンポジウム 地震に強い安全なまちづくりを考える』

海洋出版株式会社 2004「1944年東南海地震と1945年三河地震（上）」月刊地球

海洋出版株式会社 2004「1944年東南海地震と1945年三河地震（下）」月刊地球

木股文昭・林能成・木村玲欧 2005『三河地震60年目の真実』中日新聞社



三河地震によってできた深溝拾石川の段差



三河地震で崩れた深溝本光寺の土塀



蒲郡宗徳寺の三河地震の地割れ



西深溝における断層（田に割れ目が続き沈下部分がみられる）



同 上



三河地震の断層の跡（深溝小学校改築時昭和45年4月9日学校の撮影による）



同 上

飯田 1985 より転載